

支那の無反省を奈何

列國共同管理による支那の無反省を奈何。支那の共同管理に關する列國會議が開かれる事になれば、支那の新聞や、志士論客やは恐らく悲憤慷慨し、感傷的な亡國論などを遺ることであらう。然しながら此等の志士論客は、支那が現状の列國から一部の共同管理を強要するの己ひなき狀態に在ることを先づ考へなければならぬ。財政の紊亂、内政の不統一、大總統が何人になつて、内閣が何度も更迭するなどをして、政治家は常に争ひを繰り合つて居る。然るにも拘らず支那は、その宏量によつて漸く、片づけや、更に廿一個條約の廢棄を宣言し、之を日本に交渉し來、拒絶すればヨーロッパを始めとする諸國に見合ひを示すのである。若し隣に日本が無理に居た場合、支那人は此際冷静に考へて居ればこそ、支那に見合ひを示すのであるが、曾て國運を賭して居たからである。支那の獨立は、自國の存立に影響しないに反して、國の爲め、有らゆる犠牲を提供し極力外來の勢力を防ぐせんとする國は日本、外に無い。之は外の國は支那がどうなつて居たかを知りて、日本は今まで存立して水陸の通航が出来ぬ。其同管理以上のことばは、支那の爲めに如何なる關係を有するかを、支那は直ちに之に反して居たからである。支那は共存共榮の關係に在り、事實は却て其反對に出て居た。

外務省第二回淘汰

軍事參議官の親補

海軍幹部の大移動

日米議定廢棄交渉

本社 東京特電

日本反対せず

大藏造幣局長多胡氏辭任

練習艦隊司令任命

サンルイスの春光

支那の無反省を奈何

日本と主力艦改造

米國の油船

大藏造幣局長多胡氏辭任

(西月二日聯合通信)

